



Rohde & SchwarzとChina Mobile Research Institute、生成AIのユーザーエクスペリエンステストを共同実証

MWC Shanghai 2026において、Rohde & SchwarzとChina Mobile Research Instituteは、生成AIアプリケーション向けの革新的なテストソリューションを共同で実証しました。CMX500 5Gオールインワンシグナリングテストをベースとしたこのソリューションは、多様なネットワーク環境下における生成AIアプリケーションのエンドユーザーエクスペリエンスを初めて定量的に評価し、生成AIのユーザーエクスペリエンステストに新たなアプローチをもたらします。



Caption: 生成AIユーザーエクスペリエンステストベッドのフレームワーク。

生成AIは、大規模言語モデル（LLM）を活用し、ユーザーが求めるテキスト、画像、動画などのコンテンツを生成します。LLM、コンピューティング性能、および関連アプリケーションの進化に伴い、スマートフォン、AIグラス、ロボットをはじめとするさまざまな接続デバイスにおいて、生成AIサービスの利用が急速に拡大しています。しかし、生成AI向けのテストソリューションは依然として限られており、ユーザーエクスペリエンスを評価するための成熟した指標や標準化された試験フレームワークはまだ確立されていません。現在、3GPPやGTIなどの業界団体が関連する研究を積極的に進めています。

MWC Shanghai 2026で共同展示された生成AIユーザーエクスペリエンステストベッドは、こうした課題に対応するために開発されました。本テストシステムでは、大規模言語モデルをサーバー側、すなわちクラウド上に配置し、CMX500無線通信テストがクライアント側テストアプリケーションを実行するスマート端末との無線接続を確立します。CMX500は、ネットワークパラメータ、チャネルフェージングモデル、遅延、ジッタ、RF劣化などの各種条件を柔軟に設定でき、理想的な通信環境から電波の弱いセルエッジ環境まで、幅広い無線環境を高精度に再現します。端末側アプリケーションからプロンプトを入力し、大規模言語モデルから推論結果を受信することで、ユーザーはTime to First Token (TTFT) やTokens Per Second (TPS) などの主要な性能指標を測定できます。取得したデータはホストPCソフトウェアで収集・解析され、対応するグラフとして表示されます。この手法により、さまざまなネットワーク条件下で動作するオンデバイス生成AIアプリケーションのユーザーエクスペリエンスを定量的に評価・比較できます。また、オンデバイス生成AIアプリケーションの設計最適化を支援するとともに、将来のネットワーク最適化に向けた有益な指標を提供します。

本テストソリューションの中核となるのが、Rohde & Schwarzの実績あるCMX500 5Gオールインワンシグナリングテストです。この統合型テストプラットフォームは、SAおよびNSAアーキテクチャの両方をサポートし、FR1からFR3（最大18GHz）までの周波数帯域に対応するとともに、IMSサーバーを内蔵しています。これにより、RF適合性試験、プロトコル検証、VoNR音響試験、キャリアアグリゲーション試験を一台で実施できます。これらの機能により、CMX500は5G-Advancedおよび6Gの研究開発における重要なテストプラットフォームとなっています。

China MobileのChief Expert兼ZGC-XNETのChief ScientistであるLiu Guangyi氏は次のように述べています。「6Gが実現するユビキタスなインテリジェント接続というビジョンを実現するためには、モバイルネットワークは単なる接続性を超えて進化する必要があります。ネットワークネイティブのコンピューティング能力を活用することで、超低遅延かつ広範囲にインテリジェントサービスを提供できるようになります。この変革には、新たなAIサービス評価指標と試験手法も必要です。Rohde & SchwarzとChina Mobile Research Instituteは、多様な無線環境における生成AIユーザーエクスペリエンスを評価できるテストベッドを共同で構築しました。今後は、評価指標やアプリケーションシナリオをさらに拡充し、6G対応AI技術の進化、検証、標準化を支援していく予定です。」

Rohde & Schwarz ChinaのSenior Director of Products & Systems DivisionであるJin Hailiang氏は次のように述べています。「大規模言語モデルが急速に進化する中、Rohde & SchwarzとChina Mobile Research Instituteが共同開発した本テストベッドは、生成AIユーザーエクスペリエンステストにおける重要なベンチマークとなります。MWC Shanghai 2026でこの成果を共同展示できることを大変嬉しく思います。このテ

ストアーキテクチャを基盤として、両者は今後さらに試験シナリオや業界ユースケースを拡大し、生成AIユーザーエクスペリエンステストの標準化を推進するとともに、6G AI時代に向けた強固な技術基盤の構築に貢献していきます。」

MWC Shanghai 2026の来場者は、China Mobile 6G Zone (Hall 3、N3E60) において本共同デモンストレーションを体験しました。両社の専門家が常駐し、この革新的なソリューションが将来のネットワーク向け生成AIアプリケーションの最適化にどのように貢献するかについて説明しました。

Rohde & SchwarzのCMX500オールインワンシグナリングテストの詳細については、こちらをご覧ください：
<https://www.rohde-schwarz.com/product/cm500>

www.rohde-schwarz.com

報道関係お問い合わせ先：

Europe (headquarters): Christian Mokry (phone: +49 89 4129 13052; email: press@rohde-schwarz.com)

North America: Hannah Im (phone: +1 301 957-8357; email: hannah.im@rsa.rohde-schwarz.com)

Asia Pacific: Cheyenne Chui (phone: +65 6307 0053; email: press.apac@rohde-schwarz.com)

China Mobile Research Institute

China Mobile Research Instituteは、China Mobileの科学技術イノベーション体系における中核的な研究開発機関です。「China Mobileの高品質な発展を支える中核研究機関となり、世界トップクラスの科学技術サービスを牽引するエンジンとなる」という目標のもと、国家戦略における重要な研究機関としての役割と、企業の技術革新を推進する中核的な存在としての機能強化を目指しています。研究分野は、無線通信技術、ネットワーク、サービス、セキュリティ、IoT、試験技術に加え、市場・産業戦略に関するシンクタンク研究や先端技術まで幅広く網羅しています。

【ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社について】

Rohde & Schwarz GmbH & Co. KG. (以下ローデ・シュワルツ社) は、1933年、ドイツ・ミュンヘンでDr. Lothar RohdeとDr. Hermann Schwarzによって設立されました。電子計測、技術システム、ネットワークおよびサイバーセキュリティの各分野で事業を展開するテクノロジー企業として、より安全に“つながる”社会の実現を目指しています。ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社は、2003年にローデ・シュワルツ社の完全な独立会社として発足し、自動車、ワイヤレスコミュニケーション、エレクトロニクス、航空防衛など多岐にわたる分野で、日本国内の製品販売およびサービス・サポートを行っています。

※R&S®は、Rohde & Schwarz GmbH & Co. KG. の登録商標です。

※すべてのプレスリリースは、画像のダウンロードを含め、<http://www.press.rohde-schwarz.com> からインターネットでご提供しています。

■本件に関するお問い合わせ■

〒141-0033

東京都品川区西品川1-1-1 住友不動産大崎ガーデンタワー20階

ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社

マーケティング部 関野 敏正 (Toshimasa Sekino)

電話番号 : +81 3 5925 1270/1290

Eメール : Toshimasa.Sekino@rohde-schwarz.com

Webサイト : https://www.rohde-schwarz.com/jp/home_48230.html